



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <http://nssk-tohoku.com/>

「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。」(マルコ2:27-28)
 赤信号は止まる。青信号なら進んでもよい。小学校に上がる前の子どもでも知っている交通ルールです。しかしもしもあなたが横断歩道を渡っている途中で信号が赤に変わったらどうするでしょうか。ルールに従ってその場に止まらず、渡り切ってしまうのではないのでしょうか。

逆に目の前の信号が青になったとしても、車が通りそうなら進むのではなく立ち止まり、安全を確保して進むと思います。この交通ルールの本質は「赤だから止まる、青だから進むを絶対に守る」とことではなく「命を守る」ことが大前提なのです。
 この世にはたくさんルールが存在します。法律や条例は、逮捕されるから守るのではなく、他者に迷惑をかけるから守ることが本質です。例えば廊下を走っていい



ないのは先生に怒られるからではなく、危険だからです。イエス様が地上で活動されていた周りにはフアリサイ派や律法学者などがよく登場するとおり、ユダヤ教が中心で、イエス様も弟子の多くもユダヤ教徒として生活していました。ユダヤ教の律法は有名な

十戒を除いても600以上のルールがありました。この律法遵守に対して厳格な人たちは、律法違反者に対して罰を与えたり、ひどく責めていました。イエスさまは律法のために人がいるのではなく、人のために律法があるのだと教えておられます。人を守るために神さまが作られたルールがいつしか人を裁くためのものになってしまったのです。
 ある冬の寒い日、僧侶のいる寺に一人の旅人が訪ねてきました。僧侶は宿で貸せるような寺ではないから、今晚だけにしてほしいと言って、その旅人を本堂に泊めました。夜中に、僧侶は何かが焼ける匂いで起きました。本堂に行くとその旅人は本堂の中でたき火をして暖をとっていたのです。僧侶はすぐに止めに行きました。その旅人はあまりの寒さに死にそうになり、耐えられなかったと説明しました。僧侶がふと周りを見渡すといつも置いてある木で彫られた仏像がないことに気が付きました。旅人に尋ねると、

の中にに入れて燃やしたということです。僧侶は激怒し、旅人を追い出しました。夜が明けると、大僧侶にそのことを報告しに行くと大僧侶は言いました「悪いのはあなたのほうだ。あなたは凍え死にそうなら生きている旅人ではなく、すでに入滅しておられる仏像を大切にからだ」。
 確かにこの旅人のとった行動は非常識で正しい行動ではありませんでした。しかし、命を優先できなかった僧侶もまた、正しい選択をできなかったのです。
 決まりを守ることに固執しすぎると本質を見失うことがあります。教会の中でも伝統的なルールや暗黙の了解のような文化は度々見られます。それら一つ一つは大切にすべきことですが、一番は私たちの信仰が守られること、神さまとの関係が守られることです。「これは絶対にこうでなくてはいけない」ではなく、神さまの愛のように寛容で柔和で人に優しい心を意識したいものです。
 (八戸聖ルカ教会副牧師)

シリーズ「東北の信徒への手紙」
「青なのに止まる 赤なのに進む」
 司祭 テモテ 遠藤 洋介

6月5日・11日開催 オンラインフォーラム
「原発はやめようよ」参加報告
 東日本大震災被災者支援プロジェクトメンバー
 マリア・コルベ 八木 陽子

6月5日・11日、「原発のない世界を求める週間」企画として、管区原発問題プロジェクトによるオンラインフォーラム「原発はやめようよ」が開催されました。

『震災証言集』で語られていたことがより現実味をおびて胸に迫ってきました。続く講演では、「原発からの命の守り方」と題し、森松明希子さん

からお話を伺いました。福島県郡山市で被災され、当時0歳と3歳のお子さんと共に大阪へ母子避難された方です。被災者の会の主催、原発被害者訴訟の原告として奮闘しておられます。郡山市は避難指示区域ではないため自主（自力）避難者となりますが、このような方々は全国に何万人もおられるとのことでした。

この講演の副題には「平和のうちに生存する権利」を開放さないために私たちができること」とあり、森松さんは問題を「人権」として捉えることの大切さを何度も話されていました。憲法前文にある「平和のうちに生存する権利」を保障されているはずの私たちが、原発という国策によって犠牲とされる世のあり方に声をあげ、子どもたちの未来を守らなければと立ち上がったおられることに深く感銘を受けると同時に、私ももっと自分事としてこの問題に関心を持ち、「NO」と意思表示していかなければならないと思いました。原発の問題は「命」という最も大切なものに直結するだけに、経済や環境の問

題と同列に考えるのではなく、最優先に取り組むべき問題であるというお話が印象に残りました。11日は被災者支援プロジェクトの働きのひとつである「水曜喫茶」参加者へのインタビュー映像を見ました。数日だと思っていた避難、その後10回も避難先が変わったことなど生の声をお聴きしました。震災後の年月、どのような思いで過ごされていたのかを思うと胸が痛みました。また「水曜喫茶」が、参加されている方々の心の拠り所となっていることも感じました。その後、グループに分かれて話し合いがもたれました。原発・放射能汚染・被災者や避難者の問題など大きな問題が山積している中で、私たちに何ができるのか、教会として何ができるのか多くの意見が出されました。これらの問題は繊細で話題にしづらいこととありますが、神さまからいただいた大切な「命」を守るために、教会としても未来へ向けてのビジョンを持ち、力を合わせなければならぬという思いが共有されました。

「平和のうちに生存する権利」を保障されているはずの私たちが、原発という国策によって犠牲とされる世のあり方に声をあげ、子どもたちの未来を守らなければと立ち上がったおられることに深く感銘を受けると同時に、私ももっと自分事としてこの問題に関心を持ち、「NO」と意思表示していかなければならないと思いました。原発の問題は「命」という最も大切なものに直結するだけに、経済や環境の問

日本聖公会婦人会
第27（定期）総会報告

東北教区婦人会会長 マーガレット 梅津 庸子

6月15日から16日まで、時節柄移動を避け新大阪駅に近しいホテルで礼拝も会議も行われ、代議員として盛岡聖公会婦人会会長 赤坂康子さんと参加しました。2年にわたりオンライン会議でしたので、パソコンの画面上でお会いした9教区の代表と初めて直に顔を合わせました。開会聖餐式では植松誠主教様が説教をして下さり、4月に北海道教区主教に就任した笹森田鶴師が司式に加わりました。傍聴者が多いのには驚きで、地元での開催ということもあるでしょうが日聖婦が身近な存在なのか、少し羨ましくも感じました。

日聖婦の活動の中心である「感謝箱献金」の活動は、1892（明治25）年、祈りと献金で伝道を助ける「メリー友の会」が発足して以来、今年で130年目を迎えます。

今年も7つの国内外の団体に支援することが決まりました。東北教区の皆様、婦人会の有無に関わらず心を寄せてくださると感謝です。

次期役員会は横浜教区婦人会が選出されて、提出議案の審議はすべて終了しましたが、議事は順調に進みましたが、最後に女性の聖職者按手についての発言があり、座が一挙に引き締まりました。女性の聖職位については今も認めていない立場の方々もおりますが、武藤謙一首座主教様は「立場を越えて宣教の業を担うことの大切さ」、笹森田鶴主教様は「50年後、100年後に神のみ旨に従えたかどうか、何かが見えてくるはず。立場は違っても神の家族としていっしょに歩んでいく。」と述べられ、この言葉を胸に深く納めて戻ってまいりました。



「弘前昇天教会」

弘前昇天教会

アンナ 工藤 みどり

二人の子が明星幼稚園にお世話になった時から教会通いが始まり3年。3年の保育が終わってからも教会が大好きな二人。小学生になってからも日曜学校に通い、大人になった娘は夢だった教会での結婚式をヨハネ佐藤忠男主教様にお世話になり、感謝の気持ちで一杯でした。

突然の夫の死、すぐに佐藤忠男主教様に連絡をとり、青森の長谷川司祭様に連絡して頂き緊急洗礼を受け、洗礼名



シメオン工藤正志、アンナ工藤みどり、を頂きました。

葬送式2021年9月16日に、10月10日夫シメオン工藤正志逝去1カ月記念礼拝、司式ヨハネ佐藤忠男主教様が行ってくださいました。ありがとうございます。

11月28日初陪餐を受け、2022年5月29日、ヨハネ吉田雅人主教様に堅信式をして頂き、感謝の気持ちで一杯でした。

洗礼を受けて、教会用語の言葉が身にしみて大切なことがよくわかりました。

教会スタッフの方々、本当にありがとうございます。

「導かれて」

青森聖アンテレ教会

オーガスチン 立本 正治

妻が病気になったことをきっかけに何度となく自宅に長谷川司祭様が訪れ、お祈りやお話をしてい中で「葬送式は教会でやりましょう。」と言ってくださいました。妻は、教会とは疎遠になっていたことを告げると、長谷川司祭様は「そんなことは心配し

なくていいですよ。洗礼を受けているのだから迷ったらいつでも教会に来ればいいですよ。その為に教会ではいつでも扉を開けているのですから。」と仰り、その時の妻が、今まで見たことのないような

晴れやかな笑顔で長谷川司祭様の手を握りしめていました。それから数日後、妻が私に「お父さんも一緒に墓に入らな

ら洗礼を受けてね。」と言いつつ、私のことを最後まで心配して天に召されました。その時に私は洗礼を受ける事を決

意しました。来世でも妻と一緒にいてあの笑顔が見たいからです。

妻の埋骨後に洗礼堅信を受けようと思っていたところ、長谷川司祭様から「洗礼堅信式



は、逝去一周年記念の式及び埋骨前の6月5日にしましょう。教区主教様も来ますから。」と言われました。

その日は、甥と姪も一緒に洗礼を受けることになり、さらに青森聖アンテレ教会宣教130周年記念の日にも重なり、三重の喜びでした。これも神様と亡き妻と皆様方の導きによるものと思ひ、感謝いたします。

洗礼おめでとう

ヨハネ 中居 孝男

(5月24日・青森)

オーガスチン 立本 正治

エドワード 石場 叶真

エリザベス 石場 愛莉

(6月5日・青森)

初陪餐おめでとう

エドワード 石場 叶真

エリザベス 石場 愛莉

(6月5日・青森)

堅信おめでとう

アンナ 工藤 みどり

(5月29日・弘前)

オーガスチン 立本 正治

(6月5日・青森)

常置委員会報告

(第8回・6月15日)

◇常置委員長報告

管区定期総会その他を報告。

◇協議事項

- (1) 室根聖ナタナエル教会の居住者との契約等について…覚書を一部変更して更新することを承認。
- (2) 教区諸規程改正について…教区会細則、業務組織及び業務分掌規程の修正案を規則規定グループに答申。

- (3) 第106(定期)教区会の日程等について…日程11月23日(水)9時～16時。公示日を9月1日とすることを承認。会場は次回以降に判断。
- (4) 次期主教選挙を行うかどうかの意見集約への道程に関する件…信徒・教役者の意見を踏まえた常置委員会の基本方針を周知する報告会を7月30日(土)13時～15時に仙台基督教会を会場に開催。教区会代議員には原則出席を要請する。内容の詳細は、次回常置委員会で検討する。



弘前昇天教会

昨年の聖堂聖別100周年記念事業の一環として、礼拝堂の暖房設備を更新する計画が今進んでいます。しかし県の重要文化財に指定されている建物では制約が多く、また予算も限られているので、順調に進んでいるとは言えません。

今年も暑い夏になりましたが、司祭館に待望のエアコンが一台設置されました。礼拝堂には冷房設備がまだありません。夏も冬も快適に過ごせる教会となりますように……。

盛岡聖公会

コロナ禍になって教会の礼拝は休止(非公開)、再開を繰り返しながら、現在は毎日行っています。諸集会に関してはBSAの例会は再開されました。婦人会は役員会のみで婦人会例会、そして聖歌隊の活動もお休みが続いています。

仙台基督教教会

教区の宣教方針の実践のために、皆さんの賜物を持ち寄って知恵を出し合って、何か出来ることを一つずつ始めてみようかと模索しているところです。

コロナ禍でも教会で楽しく過ごしてほしいと、日曜学校では特別な日にビニャータという紙製くす玉にお菓子等を詰めて吊り下げ、棒で叩いて割るゲームをします。復活日はうさぎ、聖霊降臨日には鳩で飾った手作りのピニャータを、子どもたちが一人ずつ棒で叩きます。見事に割れて中からお菓子が出てきたときは歓声が上がります。みんな夢中になって拾っていました。子どもたちの笑顔は元気の素です。

鶴岡聖公会

「東北教区成立100年の歩み」には、1932年(昭和7年)7月20日、鶴岡聖公会の献堂式が行われたとあります。

庄内平野のほば真ん中に位置し、入部400年の鶴岡市として発展し、現在があまり

す。自然環境は抜群で、山川海里、どれ一つとっても良いところばかりと思つて暮らしています。鶴岡城址のすぐ近くに教会があります。色々の花が咲き、通る人々が足を止める姿が見られます。大切な教会月一度の礼拝、感謝です。

郡山聖ペテロ聖パウロ教会

当教会では6月、久しぶりに結婚式がありました。式の間中、新郎新婦の嬉しそうな笑顔がとても印象的です。衣装や写真担当のホテルの方々は「こんな素晴らしい礼拝堂が郡山にあるとは知りませんでした。おかげで素敵な映像が撮れました。」と感動の面持ちで話していました。国の登録文化財といつても一般にはあまり知られていない現実、広報の大切さを改めて強く感じさせられた日でもありました。

8月7日は「日本聖公会青年活動のための日」です。宣教の器となる青年たちの学びと活動を覚えて祈り、献金をお献げください。

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

◆「2022原発のない世界を求める週間」オンラインフォーラム「原発はやめよう」開催に際して、原発問題プロジェクトに協力しました。6月5日の公開オンライン講演会に、5月と昨年11月に撮影した磯山聖ヨハネ教会と祈りの庭、南相馬市小高区、浪江町の風景写真を提供しました。11日のオンライン分ち合いでは、水曜喫茶に集う3人のインタビュー録画を放映しました。「原発被災者の生の体験談に共感した、証言を聞く事の大切さ、現地訪問の期待」などの声が聞かれました。渡部正裕さんが撮影・収録しました。

◆6月の「買い物支援バス」は、新しい利用者が1名増えて5回行われ延べ37名が利用しました。新地町で毎月1回定期開催の「水曜喫茶」は15日に開かれ6名参加、「第98回広畑お茶会」は29日に17名が集いました。広畑お茶会は9月に第100回目となるため記念しようと話し合っています。

永遠の平安

ヨハネ 中居 孝男 (5月24日・青森)

クララ 高橋 トキ (6月4日・釜石)

フランシス 齊藤 高夫 (6月5日・盛岡)

パウロ 古川 稔 (6月14日・八戸)

プリスカ 石ヶ森 鈴代 (6月18日・盛岡)

ナタナエル 本多 清士 (6月28日・盛岡)

ヤコブ 工藤 敏明 (7月2日・盛岡)

8月逝去者記念聖餐式

8月2日(火) 午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 (未定)

伝道師 ルツ星 安代

1955年8月5日逝去
主教 サムエル 今井 正道

1983年8月12日逝去
司祭 John Cole McKim

1952年8月26日逝去
司祭 パウロ 関屋 正彦

1994年8月27日逝去
司祭 George C. L. Ross

2020年8月29日逝去